



- ・地域防災 HUG コース：2年1組、2組（9チーム）  
DIG コース：渡り廊下作品展示及び説明（3チーム）  
酒匂川未来コース：渡り廊下作品展示（3階BC棟間）
- ・未病 東洋医学コース：2年3組、4組、5組、6組（21チーム）  
未病普及コース：社会科教室（9チーム）

発表会については、各 HR 教室等を使い、ポスターセッション形式で行った。（発表時間：5分）  
聴き手は質疑を行いながら発表を聴き、発表後は付せん紙に質問や感想等を記入し発表者へ渡し  
（質疑：5分）次の発表ブースへ移動した。（移動：5分）

地域に関わる実践的なプロジェクトについては、2月の校内発表会の代表グループとして発表  
を行うこととした。

### <発表会の一部>

「地域防災」における DIG コースでは、作製した近隣の立体地形図や山北町の災害マップをもとに、  
地震、がけ崩れなどの自然災害における地域への影響について解説した。HUG コースでは避難所運営に  
ついて学習した。



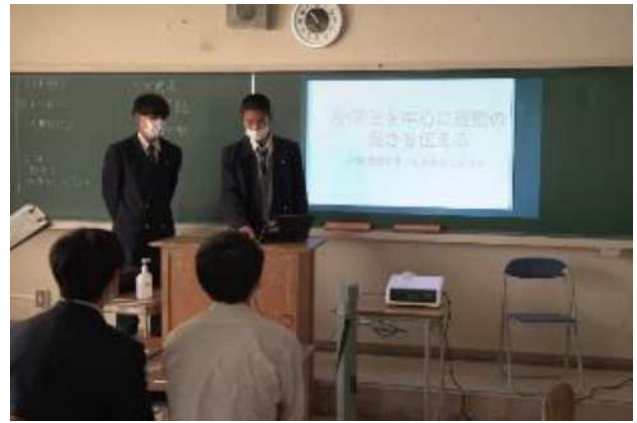
HUG コースでは、ダンボールで作製したスリッパやパーテーション、トイレなど避難所生活に必要な  
グッズについて解説した。また、「窃盗」や「性犯罪」など避難所生活における不測の事態についての説  
明や、そうならないための避難所運営の方法などを発表した。



酒匂川未来コースでは、近隣の方から「聞き書き会」を通して得た酒匂川の情報をまとめ、展示を行った。展示の中では、歴史を紐解く中で、河川の氾濫による災害についても触れた。



「未病」の発表では、東洋医学的な視点から「未病診断ツール」「未病改善ツール」など地域の方々へ還元できる内容の発表が多く見られた。未病診断ツールでは、舌診や経穴・経絡を使った発表など「未病」の考え方を理解した発表が多く、改善ツールでは、経穴を使った改善方法や子ども達への運動の機会の確保など様々な視点から生徒自身が試行錯誤した発表が多く見られた。



発表会全体として、グループの中で発表が偏らないよう、回数や参加者の設定をし、全員が発表を経験できるよう行った。また、参加者の意見や感想が全体で共有できるよう、付せん紙を使い振り返りを行った。



#### オ 成果及び評価

今回の発表会では、コロナ禍でありながら、山北町議会議員をはじめ、地域の方やコンソーシアムの関係者など、外部から約 20 名の参加者を得ることができた。

参加者アンケートの自由記述では「それぞれのチームでテーマに対する着眼点が素晴らしかった」「現状把握→調査→課題の整理→対策案→まとめで構成されており、パワーポイントも見やすかった」「情報のとりまとめやプレゼンのスライドの作成に関しては、どの班もよくできていた」など前向きな回答が多くあった。しかし、「どの生徒もプレゼン時に聞き手と目を合わせることが少なく感じられました」「プレゼンの仕方について学習する時間があるとよい」など、これからの課題を外部から提示していただくことができた。

山北町役場、山北町町議会議員等の参加が多くあり、アンケートの回答をいただけたことから、「山北町への提言」という部分に関して、少しずつではあるが、具体性を持たせることができてきていると考えられる。

今回はポスターセッション形式で行い、1 グループ最大 5 回の発表があり、一人一回は必ず発表することができた。

#### カ 今後の課題

今回の発表会は、基本的に各 HR 教室を会場にポスターセッション形式で行い、会場担当教員が司会やタイムコントロールを行った。今後は生徒が主体的に運営できるようにしていきたい。

担当グループが中心となり学年職員で協力し運営したが、グループ、担当学年だけでは人手が足りなかった。今後は生徒主体の運営となるよう調整しながら、学校全体の取組として企画・運営できるような工夫が必要である。

## (2) 未来探究校内発表会

### ア 目的

各学年における探究的な学習の1年間の取組を、学校全体で共有する。また、生徒の探究活動における発表を行うことで、学習をさらに深化させるとともに、学校と地域が連携した一層の教育活動の充実と推進を図る。

### イ 日程

令和3年2月4日(木) 9時20分～12時30分

- ・前半の部：9時30分～11時10分 代表生徒による発表
- ・後半の部：11時30分～12時20分 露木 志奈氏によるオンライン講演会

### ウ 対象生徒

本校1学年及び2学年

### エ 発表会の内容

1年生では、「山北」、「未病」、「防災」の各単元で学習した内容について、2年生では、学校設定科目「未病」「地域防災」で学習した内容について、特に地域との関わりの中で、実践的なプロジェクトについて代表グループによる発表を行った。

発表時間は各グループ5分。生徒はワークシートを使い、振り返りを行いながら参加した。

#### <1年生>

	グループ名	テーマ
1	7班	山北の観光地
2	1-3 4班	山北の医療
3	Queen 酒井	少子高齢化
4	チーム Mountain 小伊	睡眠の大切さ
5	未病・運動	運動する時間帯と節度
6	GOODY	環境の変化による人間への影響

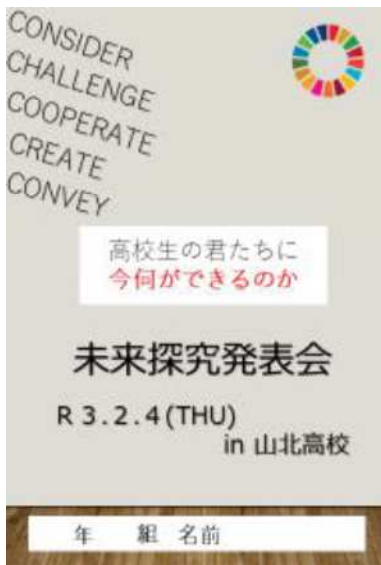
#### <2年生>

	グループ名	テーマ
1	たくみんず	避難所トラブル
2	週6部活	スマホの消毒について
3	ポメラニアン	学校でイベントを開催したい
4	銀杏 Boys	子ども達に運動の機会を ～新聞紙を使った運動～
5	ゆかいな仲間たち	健康的な～Body～
6	たかうみ'S	山北町の自然環境について ～コロナ前とコロナ後～

今年度の校内発表会は、新型コロナウイルス感染症対策における緊急事態宣言下での実施となり、当初は、体育館での実施を計画していたが、各HR教室を使っての発表会に変更した。



発表グループは事前に発表動画を撮影し、探究系の生徒が各 HR 教室で司会をし、スケジュールに沿って、動画の視聴を行った。その際、ワークシートを活用し、参加型プレゼンテーションとなるよう工夫した。



未来探究発表会 ワークシート ～1 学年発表編～ ※発表を聴く際使用  
発表を聴いて良かった点、質問してみたいこと、自分の今後の学習活動につなげられるかをメモしよう。  
※アンケートフォームでここに記入した内容を返させていただきます。

○発表者  
○良かった点

○質問したいこと  
○自分の今後の学習活動につなげることができるか

○発表者  
○良かった点

○質問したいこと  
○自分の今後の学習活動につなげることができるか

○発表者  
○良かった点

○質問したいこと  
○自分の今後の学習活動につなげることができるか

講演会振り返りシート 年 組 番 氏 名

講演会を聞いて探究活動を振り返ろう

- 講演会の感想
- 講演会を聴いて、これからの探究活動に活かしたいことは何ですか？
- 講演会を聴いて明日から自分が行動できると思ったことは何ですか？



#### オ 講演会の内容

「今、世界中で何が起きているのか」～私たちだからできること～ と題し、露木志奈氏（環境活動家）を講師に招き、オンラインで講演会を行った。露木氏は神奈川県出身で県内公立中学校を卒業後、インドネシアの Green School Bari へ進学した。現在は大学を休学し、小中高校生を対象とした気候変動についての講演会を全国各地で行っている。

探究活動の1つのテーマに「自分事化」がある。露木氏は自らの「問い」から「実践」し現在では生徒と年代ながら全国各地で精力的に活動している。そのような姿から生徒が何かを感じ取ってくれることを願い、露木氏を講師とした講演会を実施した。

#### カ 成果及び評価

発表会後の生徒アンケートでは、「主張がしっかり伝わるプレゼンテーションであったと思いますか」の設問について、「すべて主張がしっかり伝わる発表」43.2%、「ほとんど主張が伝わる発表」34.2%であった。「全体を通して、自信を持ってプレゼンテーションができていましたか」の設問について、「すべて自信を持っている発表」42.7%、「ほとんど自信を持っている発表」31.7%であった。

教員アンケートでは、主張がしっかり伝わるプレゼンテーションであったと思いますか」の設問について、「すべて主張がしっかり伝わる発表」43.8%、「ほとんど主張が伝わる発表」50.2%であった。「全体を通して、自信を持ってプレゼンテーションができていましたか」の設問について、「すべて自信を持っている発表」18.8%、「ほとんど自信を持っている発表」75.0%であった。自由記述では、「今回は事前収録という形であったが、この形も思っていたよりも良かった」「生徒に指導をするために、我々教員が chromebook やスライド等を使いこなす必要があると感じた。また、それを学ぶ機会があると良いと思った」などの回答があった。

講演会の事後アンケートでは、「講演会后、世界の問題について考え方が変わりましたか」の設問について、「変わった」50.3%、「やや変わった」30.7%であった。「環境について自分にできることはあると思いますか」の設問については、「あると思う」52.8%、「少しあると思う」30.7%であった。また、自由記述では、「問題と解決策を簡単に考えるのではなく、過程や順序を知る事が大切だとわかりました」「どんな課題に対しても今自分にできることを探そうと思いました」「地球温暖化のために自分達ができることがもっとないか探してみたいと思った」などの回答があった。

発表会については、生徒が前向きに取り組んだ様子が、アンケート結果からも示唆された。また、講演会については、自由記述でも「自分事」と捉えている回答が多く、今後の生徒の探究活動が期待できる結果となった。

今回の発表に関しても、運営指導委員会委員、町議会議員の方やコンソーシアムに関わる方々のオンライン参加があった。2年生のいくつかのグループは、12月の発表会での反省を生かし、「山北町への提言」ということに関し、具体的な方策案として発表することができた。

#### キ 今後の課題

オンラインでの実施に際し、コンソーシアム団体でもあるベネッセコーポレーションに協力頂いた。所管するグループや学年の指導だけでは、スムーズにできなかったように感じる。今後は、全職員で運営に当たるとともに、来年度以降も引き続き、発表会の運営も含めた形で、コンソーシアムの協力を期待したい。